

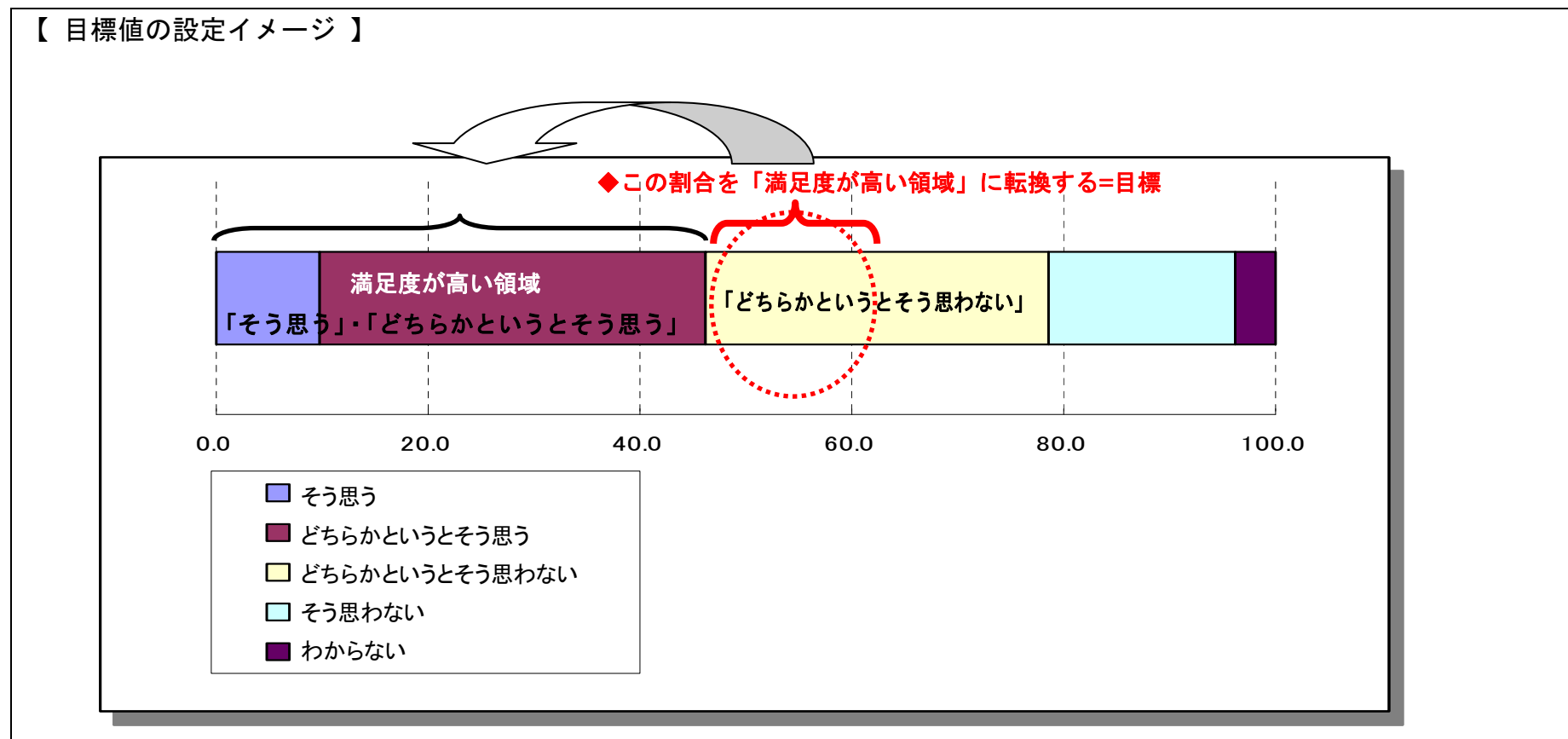
市民満足指標について

1 基本的な考え方

- 政策レベルである基本施策ごとに市民満足指標を設定する。指標の対象とする基本施策は、対象範囲が広範にわたっていることから、その達成状況を一つの定量的指標で測ることは困難であるため、現在の社会経済環境の中で生活している市民の感覚に着目して、指標の設定にあたっては、「〇〇であると感じている市民の割合」という、基本施策の対象範囲における市民の実感（満足度）を捉える定性的なものを採用する。
- 指標の目標値（満足している市民の割合をどこまで高めていくのか）について、現状において「満足している（「そう思う」・「どちらかというと思う」）市民の割合を維持しつつ、「満足していない（「どちらかというと思わない」・「そう思わない」）」市民を「満足している状態」に転換させていくかという視点で設定を行う。

2 目標値の設定

- 「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の一定割合を、「そう思う」、「どちらかというと思う」に転換させる。



政策の柱	基本施策	指標名	現状値 (%)		目標値 (%)
			「そう思う」「どちらかという とそう思う」の計 (A)	「どちらかというと思 わない」 (B)	1/2転換 (A+B×1/2)
I 市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために	1 保健・医療サービスの質を高める	保健・医療サービスが充実していると感じている市民の割合	40.3	26.5	53.6
	2 高齢期の生活を充実する	高齢者が生きがいをもって元気に活動していると感じている市民の割合	33.1	28.4	47.3
	3 障がいのある人の生活を充実する	障がいのある人が、安心して充実した生活を送るための環境が整っていると感じている市民の割合	20.3	29.2	34.9
	4 愛情豊かに子どもたちを育む	安心して子どもを産み、育てることができる環境が整っていると感じている市民の割合	27.7	27.0	41.2
	5 都市の福祉力を高める	福祉サービスが充実していると感じている市民の割合	27.9	27.6	41.7
	6 日常生活の安心感を高める	日常生活を送るうえで、安全・安心な生活環境が整っていると感じている市民の割合	33.3	31.0	48.8
II 市民の学ぶ意欲と豊かなこころを育むために	1 生涯にわたる学習活動を促進する	自分に合った学習の場や機会を得ることができていると感じている市民の割合	36.1	25.2	48.7
	2 信頼される学校教育を推進する	子どもたちに対して、充実した学校教育が行われていると感じている市民の割合	30.8	22.2	41.9
	3 個性的な市民文化・都市文化を創造する	宇都宮の伝統や文化に個性や魅力を感じている市民の割合	35.4	25.2	48.0
	4 生涯にわたるスポーツ活動を促進する	ライフスタイルに応じて、自分に合ったスポーツ活動ができていると感じている市民の割合	30.0	21.7	40.9
	5 健全な青少年を育成する	青少年が、社会の一員としての自覚をもって、充実した生活を送っていると感じている市民の割合	17.5	30.2	32.6
III 市民の快適な暮らしを支えるために	1 脱温暖化・循環型の環境にやさしい社会を形成する	環境にやさしい社会が形成されてきていると感じている市民の割合	34.8	26.1	47.9
	2 良好な水と緑の環境を創出する	生活環境に、水や緑など、うるおいがあると感じている市民の割合	69.6	15.2	77.2
	3 上下水道サービスの質を高める	上下水道サービスが充実していると感じている市民の割合	67.2	10.7	72.6
	4 快適な住環境を創出する	住居や周辺の住環境が快適であると感じている市民の割合	55.5	20.3	65.7

政策の柱	基本施策	指標名	現状値 (%)		目標値 (%) 1/2転換 (A+B×1/2)
			「そう思う」「どちらかとい うとそう思う」の計 (A)	「どちらかというと思 わない」 (B)	
IV 市民の豊かな暮らしを支える活気と活力のある社会を築くために	1 地域産業の創造性・発展性を高める	新たな事業や産物が、地域内から活発に産み出されていると感じている市民の割合	22.1	27.0	35.6
	2 商工業の活力を高める	商工業がさかんであると感じている市民の割合	22.0	29.6	36.8
	3 農林業の付加価値を高める	農林業が、活発化していると感じている市民の割合	28.4	24.5	40.7
	4 魅力ある観光と交流を創出する	来訪者に、自信を持って案内できる場所が市内にあると感じている市民の割合	20.2	28.9	34.7
V 都市のさまざまな活動を支える都市基盤の機能と質を高めるために	1 機能的で魅力のある都市空間を形成する	快適さ・便利さなどを備えた、魅力のある都市環境が整ってきていると感じている市民の割合	30.8	28.0	44.8
	2 円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する	自動車や公共交通で市内を移動する際に、便利で快適であると感じている市民の割合	30.6	24.8	43.0
	3 高度情報化の恩恵を享受できる環境づくりを推進する	日常生活で、情報通信機器を活用し、便利に暮らしていると感じている市民の割合	54.5	15.9	62.5
VI 持続的発展が可能な都市の自治基盤を確立するために	1 市民が主役のまちづくりを推進する	市民のまちづくり活動や、市政への参画によって、本市のまちづくりが進められていると感じている市民の割合	29.1	23.5	40.9
	2 行政経営基盤を強化する	健全な財政運営や行政改革により、まちづくりのための基盤が強化されていると感じている市民の割合	19.7	23.2	31.3
	3 市民の相互理解と共生のこころを育む	市民一人ひとりがお互いを尊重しながら、社会生活を送っていると感じている市民の割合	32.8	24.5	45.1